



▲町内の複数避難所にソーラーパネルを搬入

写真提供 陸上自衛隊東北方面隊

沿岸部の道が途絶えたことで多くの集落が陸の孤島になった南三陸町では、水や食料、衣類、燃料、生活用品のすべてが不足した。約1万人の避難者に救援物資が行き渡るまでには、半月以上の時間がかかった。

自衛隊は、遺体捜索、道路復旧などの作業のかたわら、水やソーラーパネルなど、人々の命をつなぐために必要なものを運び続けた。当初、緊急車両が通れる道は限られ、内陸から沿岸部に至る主要道路は大渋滞していた。仙台の駐屯地から南三陸町までは、片道5時間もの時間を要する日もあった。



▲歌津中学校に降りたアメリカ軍の物資輸送ヘリから避難していた住民たちが物資を下ろし、リレーで搬入する。

写真提供 南三陸町社会福祉協議会

震災から3日目、まだ道路の通行がままならない時期にアメリカ軍からヘリコプターによるたくさんの支援物資が届けられた。避難者は「cold（寒い）」と身振り手振りで状況を伝え、翌日には水や毛布、そして温められた食料を届けてくれた。「トモダチ作戦」と銘打たれたその支援に、世界中から支えられている実感とアメリカの方々への感謝の気持ちでいっぱいになった。

避難所に届けられた数々の支援物資は、被災した住民たちの生活を大きく支えた。